

糖尿病教育入院患者における HbA1c 高値例についての検討

かき ぼ とし あき なが さわ あつ し やま もと く み
垣 羽 寿 昭 永 澤 篤 司 山 本 公 美
よし おか さ と う とし あき
吉 岡 かおり 佐 藤 利 昭

キーワード：糖尿病，教育入院，インスリン療法

要 旨

平成18年1月から平成20年12月の間に、糖尿病教育入院を実施した延べ469名の内、HbA1c 10%以上を呈した124名を対象に、臨床像や退院後経過について検討した。124名（男70名/女54名）の平均年齢55.0歳，BMI 24.0 kg/m²，病型は1型3名，2型119名，その他2名であった。当科への受診経緯は，他院・他科からの紹介が105名（85%）で最多であった。合併症は，末梢神経障害を82名（66%），網膜症を54名（44%），腎症を50名（40%）に認めた。入院時の治療については，110名（89%）にインスリン療法を実施し，退院後の平均HbA1cは6ヶ月後6.7%，12ヶ月後6.6%と良好に推移した。退院後の経過追跡が可能であった110名中，36名（33%）がインスリン療法を離脱した。血糖不良の入院症例に対し，糖尿病教育および積極的なインスリン療法を行うことで良好なコントロールが得られ，比較的高率にインスリン離脱も可能であった。

はじめに

当院は，地域の急性期医療を担う中核病院であり，糖尿病診療においてもセンター的な役割を果たしている。血糖コントロール不良や重篤な合併症を有する糖尿病患者の紹介例も多いが，糖尿病教育パスを活用したチーム医療や病診連携を積極的に進めることによって，比較的良好な成績を得

ている（第53回日本糖尿病学会年次学術集会において発表）。今回，重症例をより多く含むと思われるHbA1c 著明高値にて入院となった症例に焦点を当て，患者背景，治療状況，退院後経過等について調査したので報告する。

対象及び方法

平成18年1月から平成20年12月の間，当科において糖尿病教育入院を実施した延べ469名の患者の内，HbA1c 高値（HbA1c \geq 10%）を呈した患者124名を対象に，患者背景，治療経過等につい

Toshiaki KAKIBA et al.

松江赤十字病院糖尿病・内分泌内科

連絡先：〒690-8506 松江市母衣町200